



Pyramix V12 Release Note

アップデート前の重要なお知らせ：

- Pyramix V12は、第4世代以降のIntel Ci シリーズ CPUにのみ対応しています。それ以外のCPUをご使用の場合は販売代理店にご相談頂き、新しいPCへの移行をお願いいたします。
- Pyramix V12には、Pyramix V12用のソフトウェア ライセンス キー ファイルが必要です。お持ちでない場合は販売代理店にアップグレードをお申し込みください。
- Pyramix V12は、Windows 10 Pro 64bitとWindows 7 Pro 64bitにのみ対応しています。Windows 10 Pro 64bitのアップデートへの対応状況は、この文章情報中に書かれています。使用しているOSが、対応バージョンであることをご確認ください。
- 以前のバージョンのPyramixが動作しているPCをPyramix V12にアップデートされる場合、既に完了したプロジェクトの保護、テンプレートやショートカットのバックアップなどを行ってください。

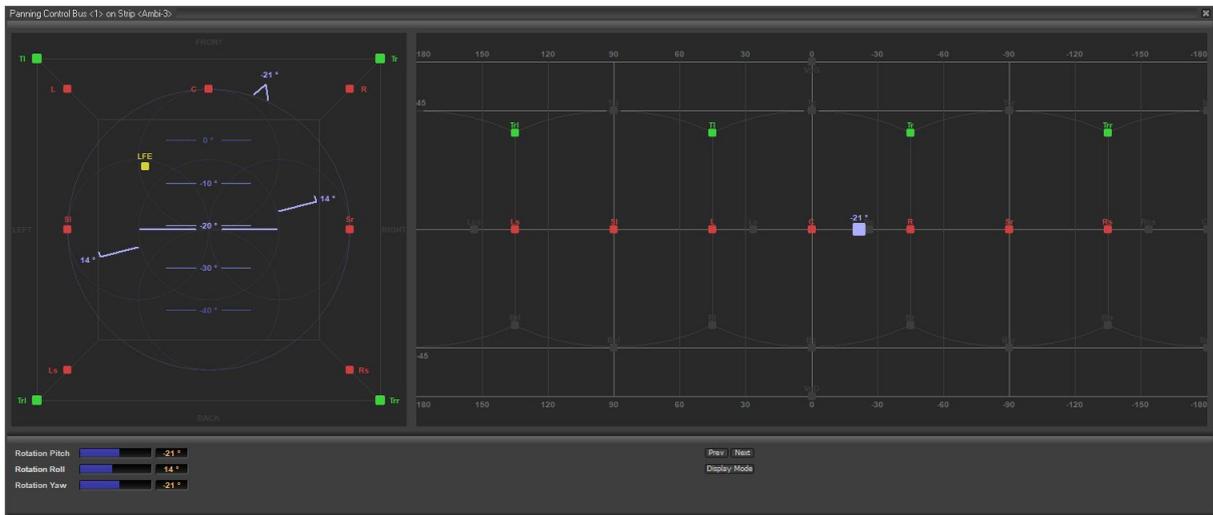


新機能と機能強化のハイライト

完全なハイブリッドチャンネルベース & Ambisonic ワークフロー

Pyramix 12には完全なハイブリッドチャンネルベース/アンビソニックワークフローが含まれており、アンビソニック信号を直接Pyramixのミキシングコンソールでエンコード、ミキシング、回転、デコードすることができます。Ambisonic Decoderは、Pyramixミキサー内の [b <> com](http://bcom.com) インテグレーションにより、Pyramix v12およびOvation v8で最大7次までサポートします。

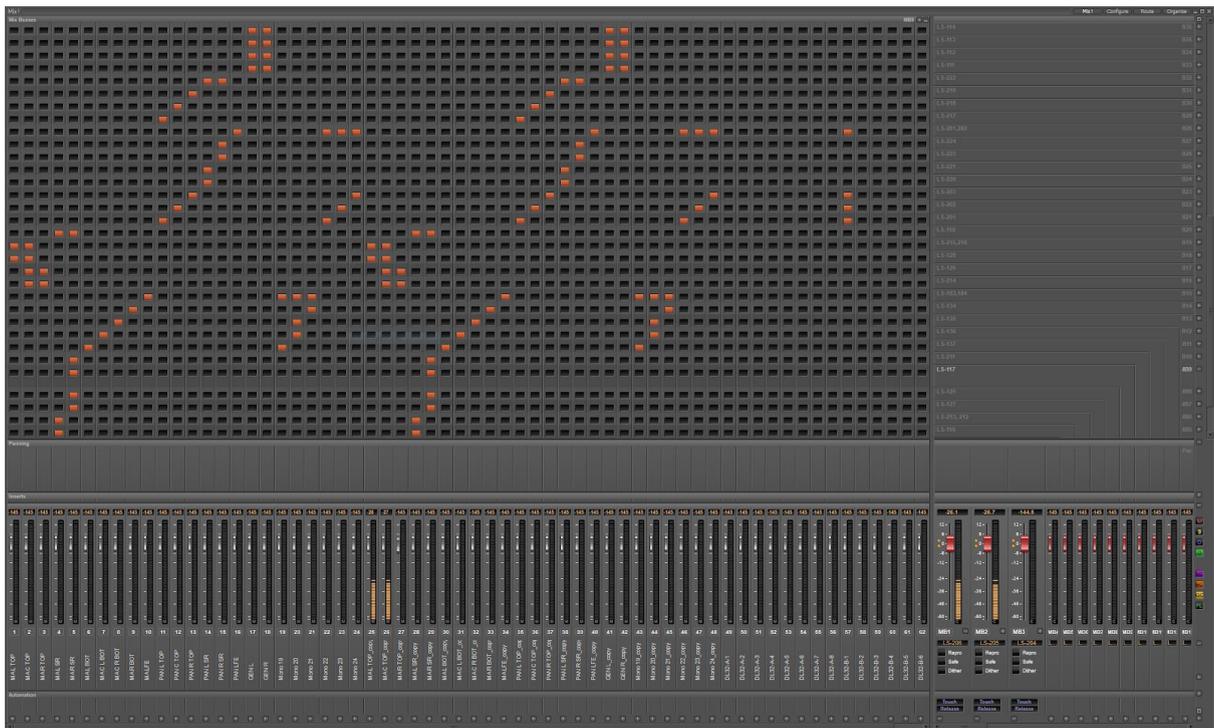
- **VR Pack**キーが存在する場合、3～7次のAmbisonic StripsおよびAmbisonic Groupは正しくデコードされます。
- **VR Pack**キーが存在しなくても、1次と2次のAmbisonic StripsとAmbisonic Groupは常にデコードされます。
- **VR Pack**キーが存在しない場合、3～7次のAmbisonic StripsおよびAmbisonic Groupは2次デコーダを使用してデコードされます。





ミキサーの改良

- バス マトリックス グリッド : ミキシングコンソールのGeneral Mixing Busセクションは、大きなマトリックスグリッドとして操作することができます。
- 新しいスクロール : ミキシングコンソールにマウス ホイールのサポートが追加されました。
- 移動可能なエレメント : VCAストリップとグループストリップはミキサーで移動することができます。
- ルーティングプリセット : Pyramix v12では、ミキシングコンソールルーティングページ内で新しくSave / Load プリセットが用意されています。
- 新しい定義済みのスピーカーセット



EVO CHANNEL & EVO IN - VS3 プラグインフォーマットで利用可能（キーが必要）

EVO CHANNEL : 究極のチャンネルストリップ

EVOは、ゲイン/ドライブ、フェーズ、コンプレッサー、EQ、ディエッサー、エキスパンダー、トランジェント/サステインデザイナー、ハンズオンインターフェイス、高速ワークフロー、調整可能なシグナルフロー、サウンドのコントロールの機能が備わった新しいチャンネルストリップです。





EVO IN : 位相を合わせ、音のバイタリティーを維持させます

独自の、正確な、任意の、そして直線的な位相回転を行います。フェイズグループに含まれているすべてのトラックの位相を同時に有効または無効にします。ソフトサチュレーション機能により、音の丸みと暖かさを持たせることができ、音のバイタリティーを維持させます。



オーサリングとアルバム パブリッシングの機能強化

全般

- Generate Master : Generate CD / SACD image を改良し、追加機能を加えました。
- MTFF デジタル リリースのインポート : 修正が必要な場合、MTFFデジタル リリースをPyramix タイムラインにインポートしてCDタグを編集できるようになりました。
- 新しくCDテキストインポート機能 (CDTEXT.BIN) が加わりました。

DXD / DSDの新機能

- SACD CMウィザードに代わる新しいSACD Cutting Master生成機能
- Digital Release では、DSDレンダリングモードまたはミックスダウンモードでDSD128およびDSD256 Editマスターを生成できます。これにより、アルバムパブリッシング用のDSD128およびDSD256入力フォーマットも可能になります。
- アルバム パブリッシングで、新しくMecoシグマデルタ変調器が使用できるようになりました。
- DSDレンダーは現在、オリジナルのDSDマテリアルサンプルレートでDSD処理を提供します (DSD64では64 F、DSD 128では128 F、DSD 256では256 F)。
- MTFF DSD Digital Release Generationは、アルバム パブリッシングまたはDiscWriteにインポートできます。

DSD
Direct Stream Digital



DiscWrite MTFE 編集サポート

- DiscWriteではテキストバリデーターが利用可能になり、顧客または工場にファイナル マスターを納品前に最終検証が実行されるようになりました。

Windows 10 October 2018アップデート（1809）サポート

Zombieloadの更新が含まれます（2019年5月14日にリリースされたマイクロアーキテクチャーデータサンプリング）。

警告 : Windows 2019年5月アップデート1903 / 19H1は、現状MassCoreでサポートされていません。

Merging はNativeとMassCoreが常に最新バージョンのオペレーティングシステムをサポートする様に努力しています。Mergingのナレッジベースの[Windowsの10 Updateページ](#)を御覧ください。

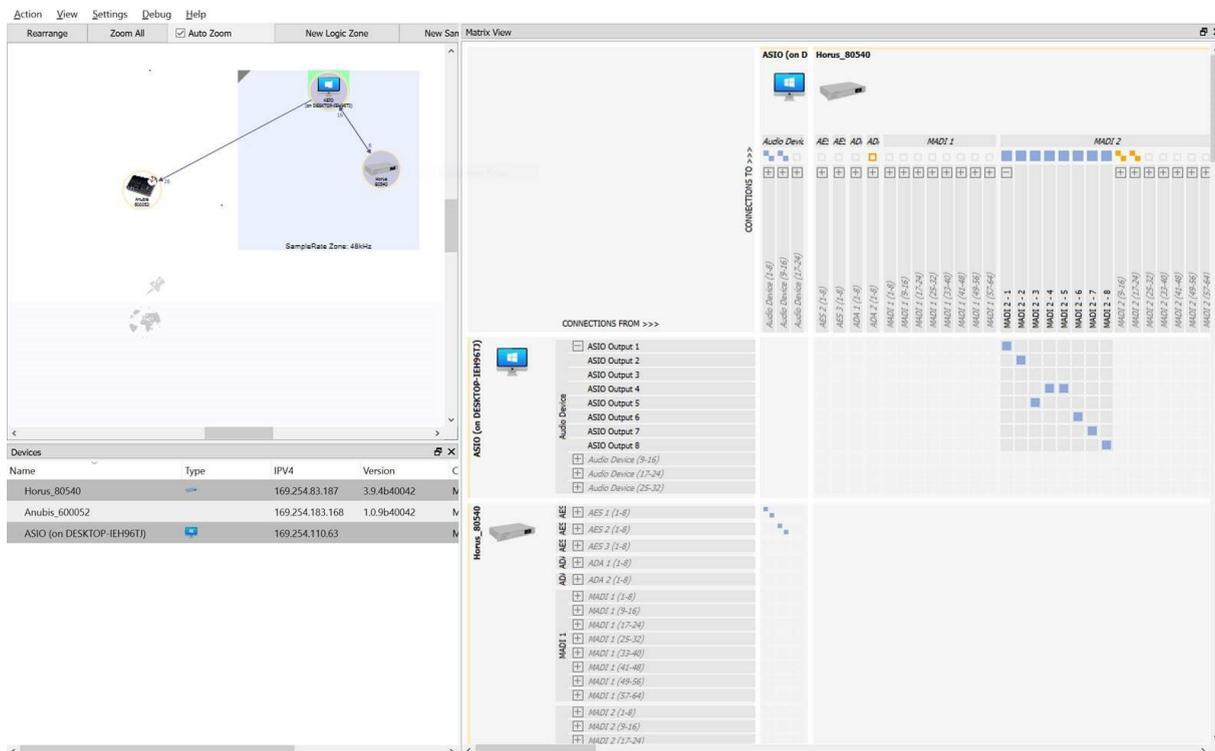




ANEMAN V1.2

新しいANEMAN 1.2は、Horus、Hapiそして/またはAnubisエコシステムをPyramix v12 / Ovation v8で使用するために必須となりました。このバージョンでは、マルチキャスト（紫）とユニキャスト（青）の接続がありますので、新バージョンをインストールした後は古いバージョンで行った接続を確認する必要があります。ユニキャスト/マルチキャストの詳細については、ナレッジベースの[このページ](#)を参照してください。

- MERGING + ANUBISとZOEMのサポート：MERGING + ANUBISまたはZOEMのネットワーク接続を管理するには、ANEMAN 1.2を使用してください。
- ユニキャストのサポート：ANEMANのマルチキャストサポートを補完するために、1つの送信元を1つの送信先に接続するためのユニキャストサポート、つまり1対1を追加しました。
- 検出とゾーンの改善：デバイスの検出とゾーン管理の処理が改善されました
- 新しいプラグインのサポート：Rossデバイスのプラグインのサポート





Pyramix v12 インストールガイド

Pyramix v12は、以下の基本ソフトウェアおよびハードウェアと互換性があります。ご使用されているPCの仕様が合っていることをお確かめの上、インストールを行ってください。

OS

- Windows 7 Professional (64bit)
- Windows 10 Professional (64bit) Anniversary (1607)
- Windows 10 Professional (64bit) Creatir (1703)
- Windows 10 Professional (64bit) Fall Creator (1709)
- Windows 10 Professional (64bit) Spring Creator (1803)
- Windows 10 Professional (64bit) October update (1809)
- Windows 10 Zombieload update

ハードウェア（プロセッサ）

- 第4世代以降の Intel Ci5/7 プロセッサ（第3世代以前のプロセッサはサポートされていません）

インストールについて

1. Pyramix v12には、Pyramix V12用キーファイルが必要です。アップデートインストールを行う前に、キーファイルがあることをお確かめください。
2. Pyramix v12以前のPyramixをインストールされていたユーザーは、コントロールパネル>プログラムと機能で以前のバージョンのMerging社製品ソフトウェアを削除（アンインストール）してください。

※ 削除（アンインストール）対象のソフトウェア

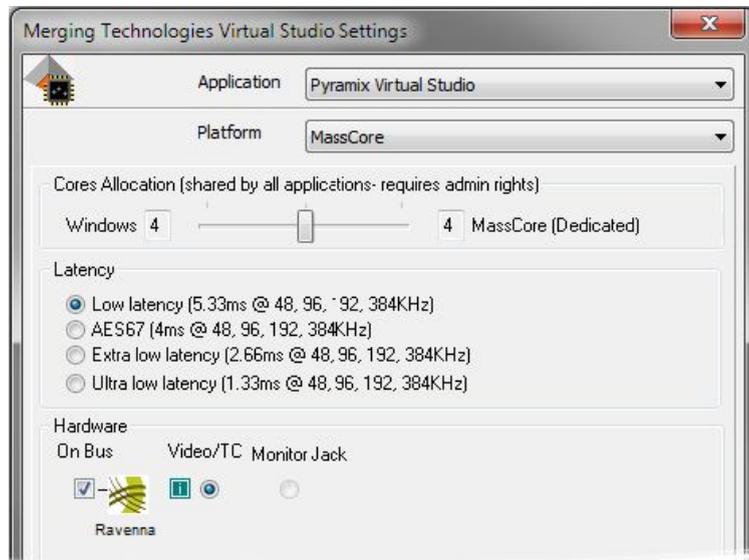
- Pyramix Virtual Studio x64
- Ovation x64
- VCube x64
- Merging Ravenna ASIO Driver x64



3. 削除（アンインストール）後に再起動を促された場合は、再起動を行ってください。また他のソフトウェアでも、削除を行った場合は、Pyramixをインストール前に必ずPCの再起動を行ってください。
4. インストールにはインターネットの接続が必要です。PCがインターネットに接続されていることをお確かめの上、インストール作業を行ってください。
5. Pyramix V12 のインストーラー（PyramixVirtualStudio_12.0.4_Build683_x64.exe）をダウンロードし、起動させてください。
6. インストール後に、PCの再起動を求められたら再起動してください。
7. Merging Ravenna ASIO Driver を使用されている場合は、Merging Ravenna ASIO Driverもインストールしてください。インストール後にPCの再起動を促されますので、PCを再起動してください。
8. FLUXのプラグインを使用されている場合は、[Flux FluxCenter-64-bit Windows Installer.exe](#) を使用して[プラグインをインストール](#)してください。
9. USBシリアルキーをPCに接続してください。USBシリアルキーのLEDが緑色に点灯することを確認してください。※シリアルキーはPyramixがインストールされていないと点灯しません。
10. Pyramix V12用キーファイルをダブルクリックし、ライセンスを認証させてください。キーファイルをダブルクリックしてMT Security が開かない場合は、コントロールパネル > MT Security Settings を開き、Importをクリックしてキーファイルのあるディレクトリーをブラウズし、指定してライセンス認証を行ってください。
11. Pyramix v11でMassCore を使用されていたユーザーは、コントロールパネル > MT Security Settings を開き、MassCoreのタブを開いてください。ここで[UnInstall](#) をクリックし、以前のバージョンのMassCoreをアンインストールしてください。この作業を行うと再起動を促されますのでPCを再起動してください。
12. Pyramix V12でMassCore を使用されるユーザーは、再度コントロールパネル > MT Security Settings を開き、MassCoreのタブを開いてください。ここで [Install](#) をクリックし、Pyramix V12用のMassCoreをインストールしてください。この作業を行うと再起動を促されますのでPCを再起動してください。
13. コントロールパネル > VS3 Control Panel を開き、Pyramixで使用する入出力用のドライバーを設定してください。

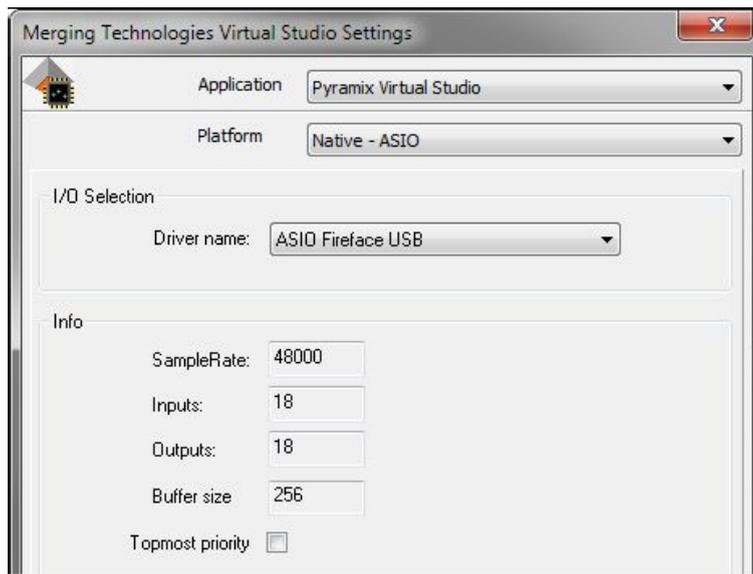


MassCoreユーザーの設定例 :



Nativeユーザーの設定例 :

Ravenna ASIO を使用している場合は、Driver name の欄でRavenna ASIO Driver を選択してください。





Pyramix v12 リリースノート

新機能：

Ambisonicサポート：

Pyramix 12には完全なハイブリッドチャンネルベース/アンビソニックワークフローが含まれており、アンビソニック信号を直接ミキシングコンソールでエンコード、ミキシング、回転、デコードすることができます。

- 7次までのAmbisonicは完全にサポートされています。詳細はVR Packのキー情報を参照してください。内部Ambisonicチャンネル番号付けとノーマライズはAmbiX / SN3Dです。注：AからBへのフォーマットとFumaからAmbiXへの変換にはプラグインを使用してください。
- Strips > Add > Multi Channel Strip のミキサーのコンテキストメニューのチャンネルマッピングリストに7つのアンビソニックオーダーが追加されました。
- Bus > Add > General Mixing Bus のミキサーのコンテキストメニューのチャンネルマッピングリストに7つのアンビソニックオーダーが追加されました。
- チャンネルベースのストリップがアンビソニックバスと交差する場合、チャンネルベースの信号はアンビソニックにエンコードされ、従来のパンナーを使用してパンされます。この場合、サラウンドパンナーウィンドウには、方位角と高度の2つのスライダーも表示されます。特定のストリップとバスのバスコントロールコンポーネントにA-Panが表示され、Ambisonic Panningが示されます。この場合、チャンネルルーティングは利用できません。
- ステレオまたはマルチチャンネルストリップがAmbisonicバスを通過する場合、チャンネルベースの信号はチャンネルごとにAmbisonicにエンコードされ、同じオプション（バランス、デュアルパン、ソースサイズ付きシングルパンなど）を使用して従来のパンナーを使用してパンされます。この場合、サラウンドパンナーウィンドウには、方位角と高度の2つのスライダーも表示されます。特定のストリップとバスのバスコントロールコンポーネントにA-Panが表示され、Ambisonic Panningが示されます。この場合、チャンネルルーティングは利用できません。
- Ambisonic StripがAmbisonic Busと交差する場合、バスコントロールにはA-MixとA-Rotの2つのオプションがあります。
- A-MixはChannel Routingウィンドウに対角線を表示するだけです。これは高度な使い方です。すべての値を0.0に保つことをお勧めします。
- A-Rotは、パンナーバスとサラウンドパンナーウィンドウの両方に回転ツールを表示します。これにより、Ambisonic Bus（出力シーン）内のAmbisonic Strip（入力シーン）を回転させることができます。
- アンビソニックストリップがチャンネルベースのバスと交差する場合は、アンビソニックデコードが適用され、アンビソニック信号がバスのスピーカーセット（またはチャンネルマッピング）にデコードされます。



- ミキシングに関して、デコード前に回転を適用する（A - R + D）か、またはデコードのみ（A - D e c）を行うかの選択ができます。
- Ambisonic Stripsは、このストリップのPannerバスにAmbisonicのロゴを表示し、Zの回転を制御します（下記参照）。
- 選択したストリップでAmbisonicバスが有効になっている場合、Surround Panningウィンドウ（View > Windows /Tools > Surround Panner またはPannerバス上でCTRL +クリック）にAmbisonicロゴが表示されるようになりました。
- 特定のストリップでチャンネルベースのバスとAmbisonicバスの両方が有効になっている場合は、Ambisonicのロゴとスピーカーを表示する従来のRoom Cubeの両方が表示されます。
- Ambisonicバスが表示されている（Ambisonicロゴが表示されている）ときのサラウンドパンナーウィンドウでは、白い四角のパンポイントに明るい青い円が表示されます。これはX/Y/Z点に相当する方位角/標高で、半径は1.0です。パンポイントと球体の表面を横切る球体の中心との間の直線の交点です。これがAmbisonic Panned pointです。
- サラウンドパンウィンドウには、従来の上面ビューと背面ビュー、新しい上面ビューと円筒ビュー（Cylindrical View）、および新しい円筒ビュー（Cylindrical View）のみを切り替えることができる新しいDisplay Mode ボタンがあります。
- 円柱ビュー（Cylindrical View）を操作するとき、方位角と標高は動きの影響を受け、半径は自動的に1.0に維持され、従来のパンポイントとアンビソニックパンポイントの両方がシーン球体表面に配置されるようになります。
- 円柱ビュー（Cylindrical View）の操作中にCTRLキーを押すと、従来のパンポイントは（球ではなく）X/Y/Z立方体の端に固定されるため、常にスピーカー間を直線で移動します。これにより、チャンネルベースの信号をパンするときに円柱ビューを最適な方法で使用できます。
- ミックスダウンで利用可能なADMエクスポートは、Ambisonic関連情報を正しくエクスポートします。

Ambisonic Decoders:

- Ambisonic DecoderはPyramix v12で7thまでサポートされ、b <> com DecoderはPyramixミキサーに統合されました。

その他の変更：

- 新しいバスまたは新しいマルチチャンネルストリップを作成するときに使用できる標準スピーカーセットリスト（チャンネルマッピングリスト）は、最新の業界標準に合わせて再編成されました。ITU-R BS.2051-1レコメンデーションにあるスピーカー配置形式は、ほとんどこのリストに含まれています。
- 新しいマルチチャンネルトラック&ストリップを作成するときに、タイムラインのAdd Audio TrackメニューにStandard Speaker Sets リストが表示されるようになりました。



VR Pack オプション :

- VR Packキーを持っていないシステムでも、1次と2次のAmbisonic StripsとAmbisonic Groupは常にデコードされます。
- VR Packキーを持っているシステムでは、3~7次のAmbisonic StripsおよびAmbisonic Groupが正しくデコードされます。
- VR Packキーを持っていないシステムでは、3~7次のAmbisonic StripsおよびAmbisonic Groupは2次デコーダを使用してデコードされます。

Note :

- アンビソニックストリップとバスは、ミキサーのコンテキストメニューまたは Configure ページで作成できます。
- Ambisonic Busのチャンネルタイプは変更できません。
- Ambisonicに基づいてチャンネルをエンコード/パンするとき、外部コントローラを透過的に使用してAmbisonicをパンできます。まったく同じコントロールが使用されます。ただし、Ambisonic RotationsはRotationsコントロールを使用するため、外部コントローラに個別にマッピングする必要があります。

既知の制限 :

- ダイバージェンス コントロールはAmbisonic エンコード/パンニング には影響を与えません。
- Pyramix MixerはAmbisonic input StripのリモートMicPreのマルチチャンネル コネクションを行うことができません。Horus, HapiのWebアクセスのPreAmpsページを使用してください。



Pyramix V12での変更

General Master:

Generate CD Image / SACD Edit Master は、Generate Master に置き換わりました。

Master Settings Section:

Type	Sampling Rate	Resolution	Mode
Red Book CD Image (PMI)	44.1kHz	16 bit	Mixdown
DSD Edit Master (DSDIFF)	DSD64(SACD) - DSD128 - DSD256	1 bit	Midfown - DSD Renderging (DXD project)
PCM Digital Release (MTFF)	44.1 - 48 - 88.2 - 96 - 176.4 - 192 - 352.8(DXD) - 384 kHz	24 bit - 32 bit	Mixdown
DSD Digital Release (MTFF)	DSD64(SACD) - DSD128 - DSD256	1 bit	Midfown - DSD Renderging (DXD project)

新機能：

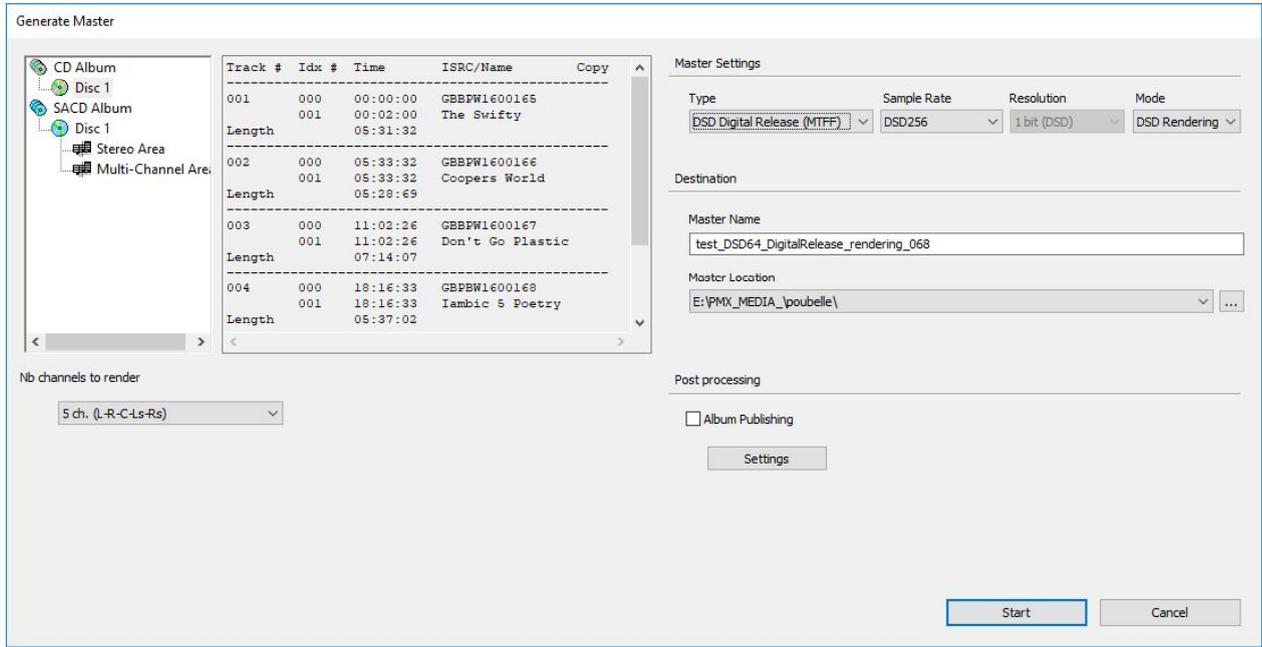
操作ミスを抑制するために、Generate Master Settings での初期化が変更されました。

Generate Masterダイアログの最終的なパラメータは以降同様にされますが、Master Type / Settingsはデフォルトのプロジェクトが持つ値に初期化されます。

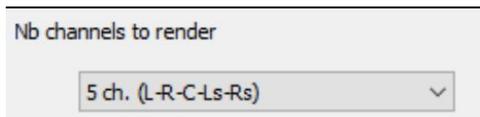
例：

- Project が 44.1kHz = Red book CD Image (441k 16bit)
- Project がPCM 48k/176.4k/192k/352.8k/384k =ProjectのサンプリングレートのMTFF PCM Digital Release 24bit
- DXD Project = MTFF PCM Digital Release 32bit float 352.8k
- DSD64/128/256 Project = MTFF DSD Digital Release, Project のサンプリング レートの DSD Renderging

Digital Release はDSD128, DSD256 Edit Master をDSD rendering または Mixdown モードから作成できます。また、Album Publishing ではDSD128, DSD256インプット フォーマットが使用できます。

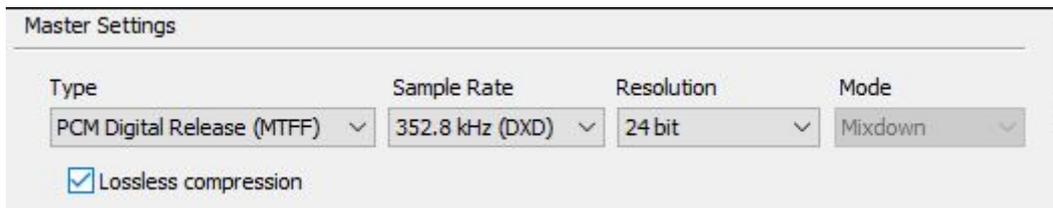


DSD Render mode では、まずレンダラーするチャンネル順を指定する必要があります。



MTFF DSD Digital Release Generation はPyramix v12 で新しく追加されたもので、Album Publishing またはDiscWriteにインポートできます。

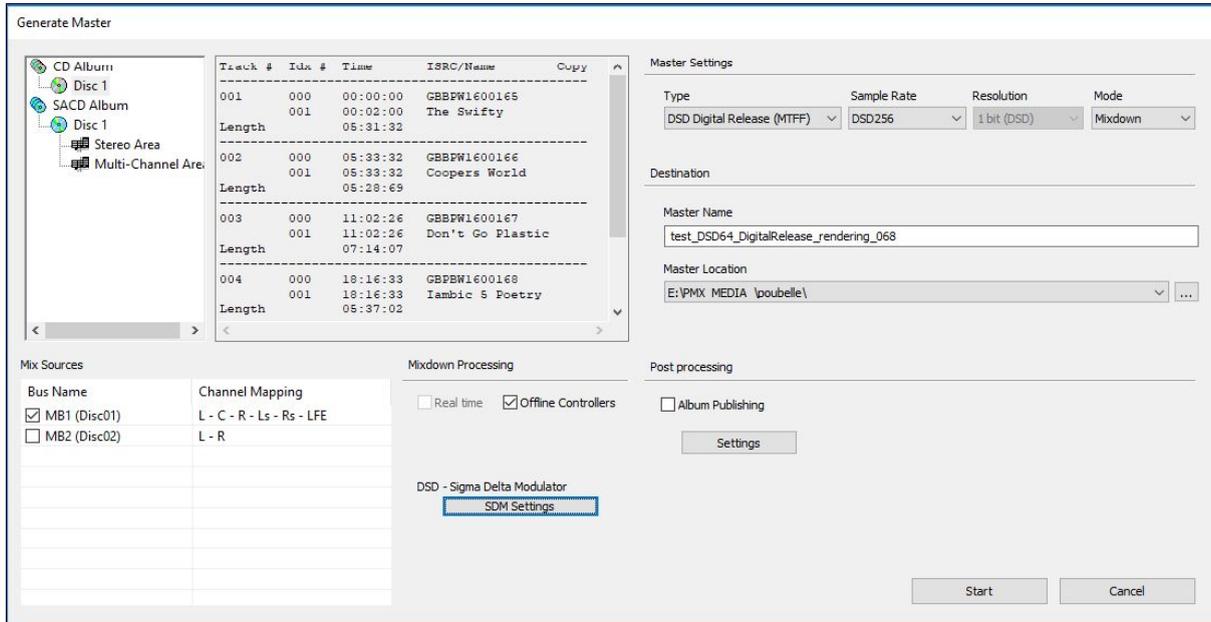
MTFF は、Generate Master で MTFF loss-less compression オプションが使用できます。



注意 : MTFF loss-less compression は、リニアPCMにのみ使用でき、Floating point PCMには使用できません。

Mixdown Processing section:

- どのMaster Typeを作成するかにより、RenderもしくはNon-Realtime Mixdownが行えます。
- DSD Edit MasterはDSD Sigma Delta Modulator Settings (Mixdown Modeの場合)に含まれました。



Post Processing / Album Publishing:

Album Publishing DSD Edit Masters のオプションに新しいDSTエンコーディングが加わりました。

- Album Publishing でDSD Edit Master を作成する場合、工程でDSTエンコードを行うかを決めるチェックボックスができました。
- Windowsのエクスプローラーで、DSD/DST DSDIFFファイルを右クリック > Properties を開くとDSD/DST info タブが表示できます。
- WindowsのエクスプローラーではDSTとDSDメディアは異なるアイコンとなります。

DST DSD encoding_DST.dff

DSD DSD encoding.dff

DSD128, DSD256 Edit Master Generation

- DSDx Digital Release Master を使用して Album Publishing を行うと、PCM処理無しでDSD128, DSD256 Edit Master を作成することができ、DSDxメディアトラックを作成することができます (DSD256 Master でDSD256 メディアトラックを作成するなど)。

DSD Renderin (Project DSD Render とGenerate Master):

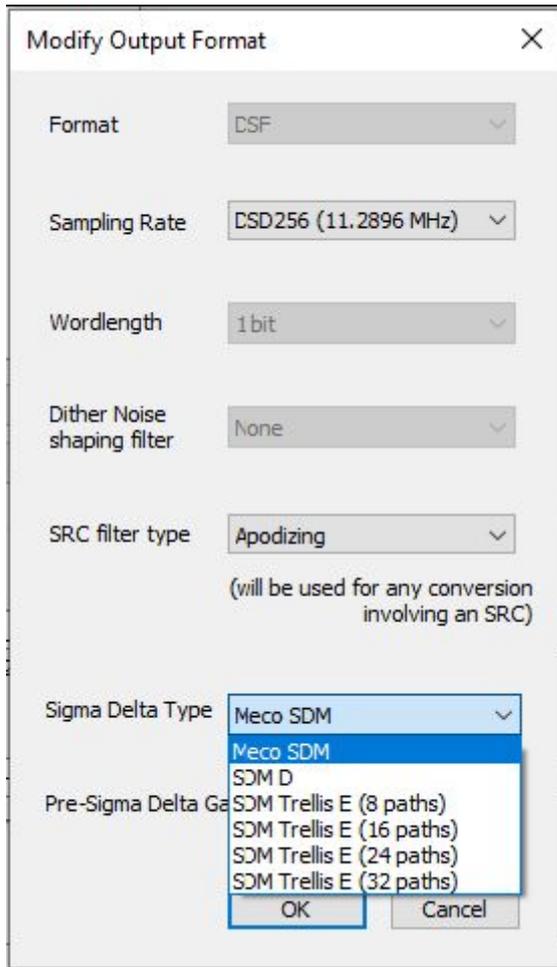
- (DSDをオリジナル サンプル レートで処理する) 新機能により、DSD Rendering プロセッシング (ゲインとクロスフェード) がオリジナルのDSD素材のサンプリング レートで行われます (DSD64では64Fs, DSD128では128Fs, DSD256では256Fs)。

Process DSD at original sample rate



Album Publishing に Meco Sigma Delta Modulator を新たに搭載 :

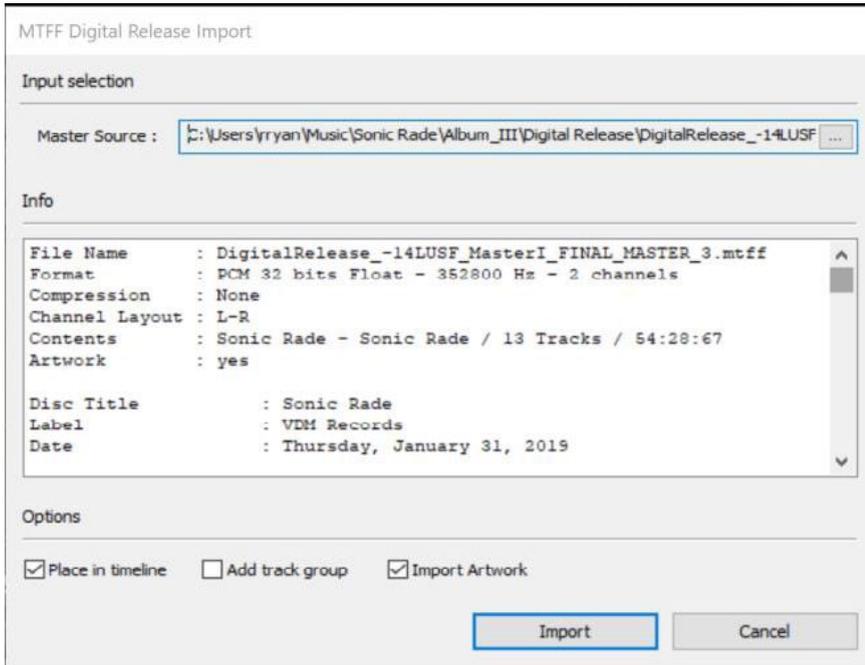
- 新しいMeco SDM (output format のSDMセクションで利用可能) は、DSDフォーマットから別のフォーマット (DSD256からDSD128など) への変換時に、高いサンプルレート (64および128Fs) の中間マルチビット ステージを可能にします。



注意 : Pre-Sigma Delta Gain と Post SRC Gain がDSDフォーマットでサポートされました。

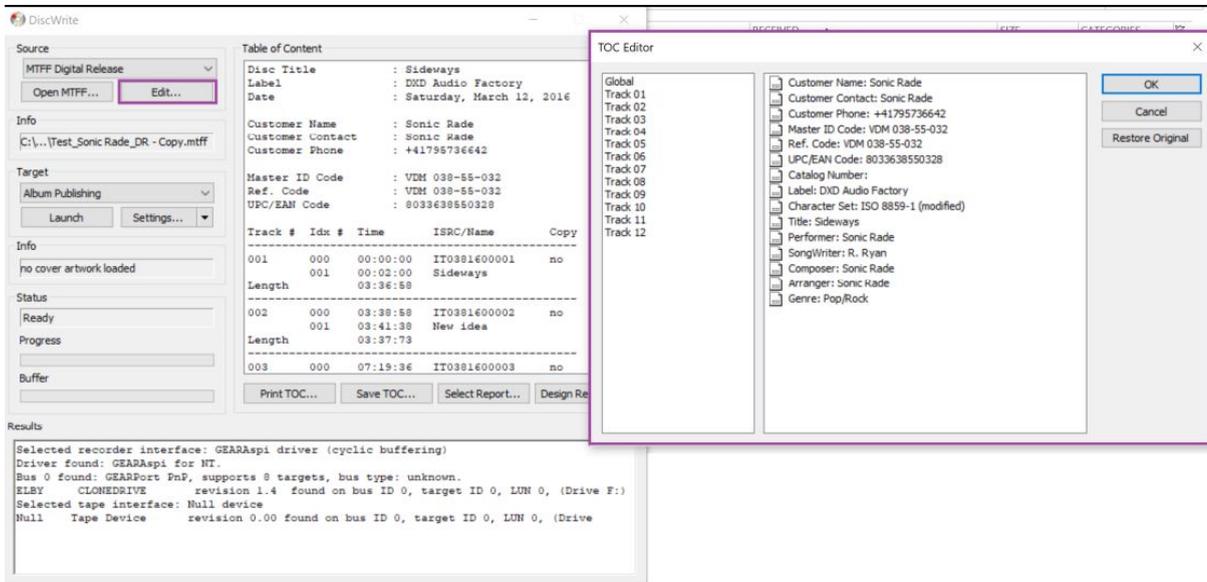
Import MTF Digital Release

Pyramix V12では、MTFF Digital Release をタイムライン上にインポートでき、CDタグを編集できるようになりました。ワークフローはPMI CD Image / SACD Edited Master / SACD Cutting Master インポートと似ています。アートワークのウィンドウはサイズ変更ができます。Project > Import > MTF Digital Release を選択してください。



DiscWrite:

- MTFFのメタデータを編集できるようになりました。変更するとソースファイルに保存または書き換えるかと質問されます。
- DSD MTFF Digital Release がDiscWriteでサポートされました（DSDIFF Edited Masterを作成できます）。





オーサリング テキストのバリデーションとレポート ジェネレーター

カスタマーへの納品や工場納品にあたり、テキスト検証用のText Validatorが使用できるようになりました。

- このValidatorはCDとSACD XTOCフォーマットをサポートしています。ファイナル マスターの仕様に合ったキャラクターセットとキャラクターがチェックできます。
 - Text ValidatorがPyramixで使用できます。
 - Text ValidatorはView > Display Toc から選択すると実行されます。
 - エラーが見つかった場合、エラーが起こった場所がError 行レポートに示されます。

エラーが起こった場所のレポートの例

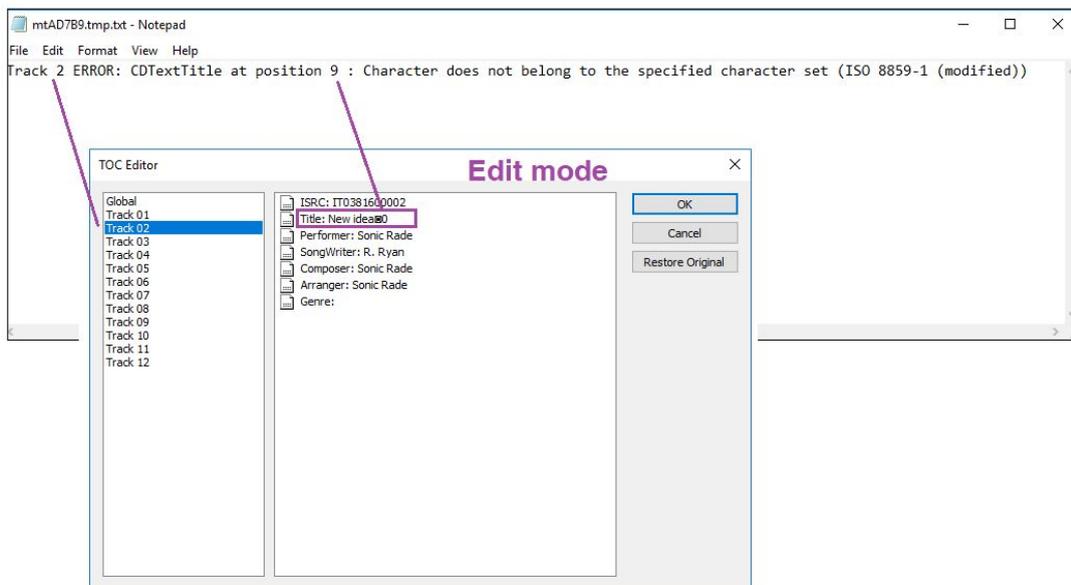
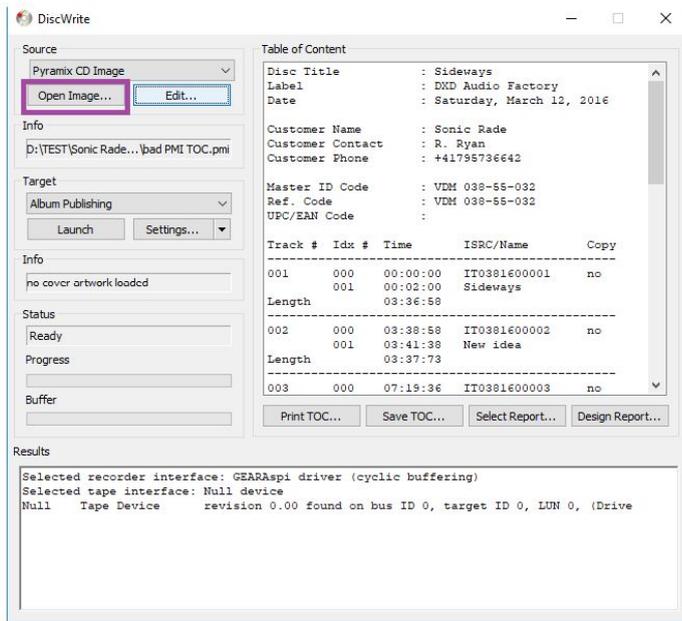
The screenshot shows the Pyramix Virtual Studio interface. The main window displays a CD/SACD project with tracks: Sideways, New idea, Tied to machines, In between, and Firefly. The 'View' menu is open, and 'Display Toc...' is selected. An error report window is open, showing the following error:

```
Track 2 ERROR: CDTextTitle at position 2 : Character do not belong to the specified character set (ISO 8859-1)
```

Track #	Idc #	Time	ISRC/Name	Copy
001	000	00:00:00	IT0381600001	no
001	001	00:02:00	Sideways	
Length 03:36:50				
002	000	02:38:58	IT0381600002	no
001	001	03:41:30	New Idea	
Length 03:37:73				
003	000	07:19:36	IT0381600003	no
001	001	07:22:64	Tied to machines	
Length 03:46:08				
004	000	11:09:72	IT0381600004	no
001	001	11:14:04	In between	
Length 04:40:22				
005	000	15:54:26	IT0381600005	no
001	001	15:56:44	Firefly	
Length 04:06:31				
006	000	20:03:00	IT0381600006	no

- DiscWriteでのText Validator
 - DiscWriteでImageやDigital Releaseを開くと、Text Validatorが起動します。
 - エラーが見つかった場合、エラーレポートファイル(.txt)で見ることができます。
 - エラーレポートには、無効なキャラクターセットとエラーの位置が記されています。
 - 報告されたエラーは、DiscWriteのEdit viewで修正できます。





新しいCD text import (CDTEXT.BIN)

CD textはDDPフォルダに別ファイルとして存在します。通常、CDTEXT.BINと名前がついており、CDに書かれるraw CD-Textです。これをPyramixのCD Text Tab (CDTEXT.BIN) にインポートできます。また、ロードしたCDのCDテキストを取得できます。

- CDテキストのみが再インポートされ（マーカーもタイムスタンプもなし）、既存のCDトラックを現在のCDに塗りつぶし、新しいトラックを作成しません。
- 現在のCDにトラックが存在しない場合は、CDテキストに関するディスク情報のみがインポートされます。



1 | 2 | 4 | 8 | 16 | A | < | >

CD/SACD

Discs Markers Offsets ISRC CD-Text SACD-Text View

Tracks

Name	ISRC
Click here to add a new CD T	
Real Thing	
My mind	

CD-Text

- Import... **Raw CD-Text File (CDTEXT.BIN)**
- Export...
- Set All Track CD-Text from Disc Info
- Set Track Performer from Disc Info
- Set Track Song Writer from Disc Info
- Set Track Composer from Disc Info
- Set Track Arranger from Disc Info
- Set Track Title from Track Name

Tree

- Customer Contact >
- Customer Phone >
- Master ID Code >

PQ Markers

Name	#	Type
Click here to add a new ...		
Real Thing	1	Start
My mind	2	Start
FlatBush Waltz Normali...	?	Stop



新しい SACD Cutting Master generation 機能

v11.1でのSACD CM wizard を置き換える機能です。

Projectに有効なSACD discがある場合、Pyramixの Projectメニューに新しいダイアログが利用できます。

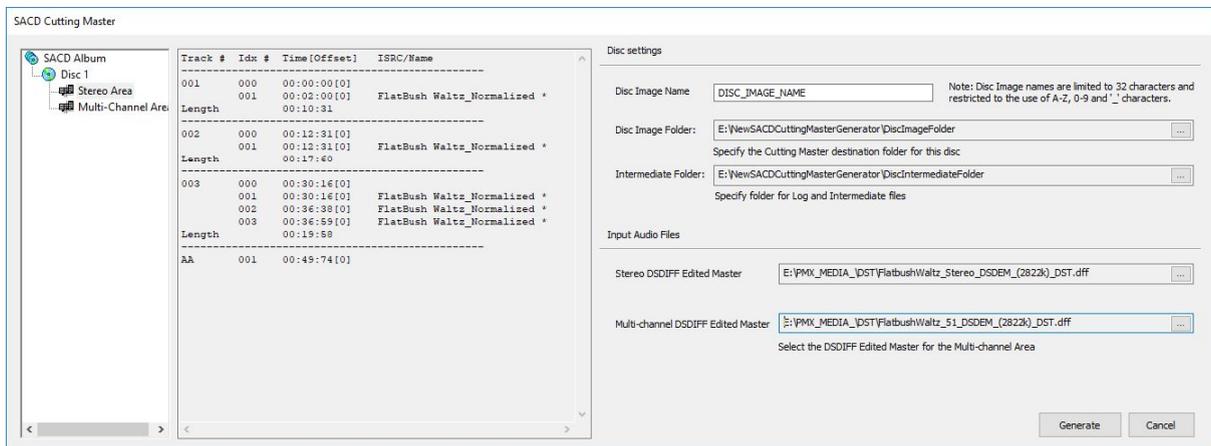
明確なシングル ダイアログ ユーザーインターフェイスを使用して、SACD cutting master ジェネレーション用の SACD Disc Builder スクリプトの生成を行うことに焦点を当てています。

各discで、下記の入力を行う必要があります。

- 1つまたは2つのDSD64 Edited master（DSTエンコーディングは必要な場合オンザフライで行われます）
- discの名前
- SACD Cutting masterの出力用に、2つのターゲット フォルダー

提供されたデータ（ソースデータファイル、TOC、テキストメタデータ）の検証が各状態で実行され、ユーザーに通知されます。

スクリプトが生成されると、ユーザーは外部SACD Disc Builderアプリケーションで実際のCutting Masterのジェネレーションに自動的に進むことが選択できます。





Mixerの改良 :

- VCAストリップはInputストリップエリアのどこにでも配置できます。
- Aux GroupストリップはInputストリップエリアのどこにでも配置できます。
- General Mixing Bus セクションはMatrix Gridとして動作します。
 - SendコンポーネントのOn/Offボタンをクリックしてマウスをドラッグしつづけるとダイアログパッチングが作成されます。
 - CONTROLキーを押すとCONTROLキーを押すと、対角線ではなく長方形のオン/オフブロックが作成されます。リージョンの迅速なパッチ適用解除に役立ちます。
 - この機能は、ストリップとバスの両方でミキサー全体が折りたたまれている場合に最適に使用されますが、一部のストリップまたはバスが折り畳まれていない場合でも機能します。
- RouteページのSave/Load
 - ミキサーのRoutingページにLoadとSaveのボタンが付きました。
 - コンソール入力, 出力, ダイレクトアウトのルーティングはXMLファイルとしてロード, セーブができます。

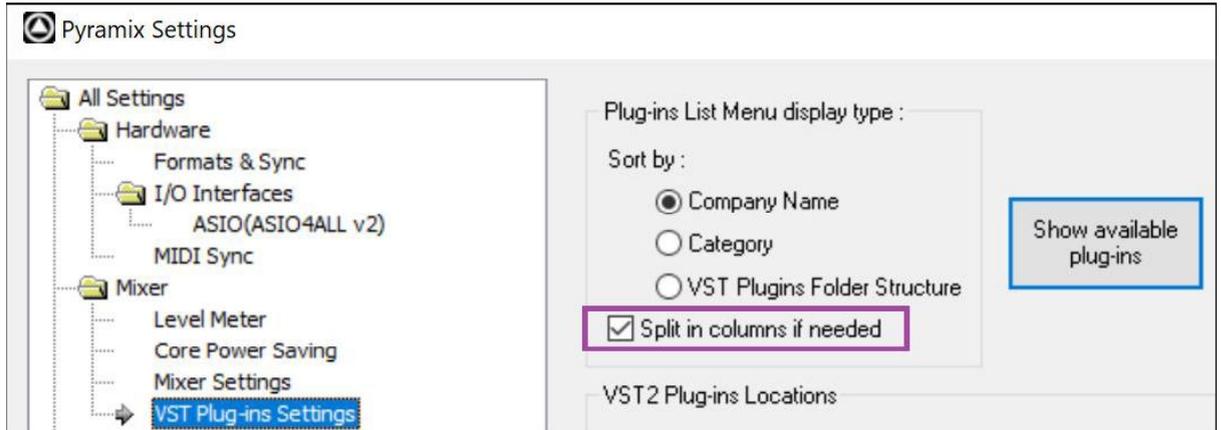
新しいMixerのスクロール機能

- Pyramix/Ovationのミキサーは、マウスのホイールをサポートしました。
 - そのままで、バスをスクロールできます。
 - CONTROLを押しながらInputエリアにポインターを置きホイールを回すと、Inputをスクロールします。また、Masterエリアにポインターがあると、Masterストリップをスクロールします。
- MasterとBussはInputストリップと同様にスクロールできるようになりました。
 - Mixerの左端を掴んでInputストリップの表示エリアを変更できます。
 - Mixerの左端を掴んでMasterストリップの表示エリアを変更できます。
 - Mixerの上端と下端を掴んでMx, Aux, Groupの表示エリアを変更できます。
- 右下にコンテキストメニューがあり、+ボタンで新しいエントリーが使用できます :
 - Console > Reveal All: Mixerを最大に表示し、全てのInput, Master, Buss を表示させます。
 - Input Strips > Scroll Half: 現在表示されているInputストリップの表示領域を半分にします。
 - Input Strips > Reveal All: 全てのInputストリップを表示します。
 - Masters > Scroll Half: 現在表示されているMasterストリップの表示領域を半分にします。
 - Masters > Reveal All: 全てのInputストリップを表示します。
 - Busses > Scroll Half: 現在表示されているBussesストリップの表示領域を半分にします。
 - Busses > Reveal All: 全てのBussesストリップを表示します。
- このメニューは次の順に表示されます :
 - Console
 - Input Strips
 - Masters
 - Busses
- 次のメニューが加えられました :
 - Faders/Effects/Pan
 - Show All
 - Hide All
 - Collapse All



これにより、Fader, Mute, PreAmp, Effect, Pan などの表示/非表示による目視が素早く行えます。

- Mixer VSTプラグインSplit by Columnsレイアウトオプション。フラッピングダイアログではなく、すべてのプラグインを一度に表示します。



非常に大きなプラグインスイートをインストールした場合、すべてのプラグインが列に表示されるとは限りません。

- Mixer: あたらしい Speaker Set 定義が加われました。
 - 9.1
 - 7.1.6
 - 9.1.2
 - 9.1.4
 - 9.1.6

その他の改良

- メニューとツールバーのボタンに“Clips > Disable Group”が加われました。これは一時的に GroupされたクリップのGroupを解除する機能です。
- クリップのEnvelopeが.5dBになりました。
- Shiftキーを使用してクリップ全体を選択すると、以前のようにクリップの外側だけでなく、クリップ内をクリックできるようになりました。



Pyramix V12の既知の問題

- 最新のv12キーが必要です。
- インストール情報については[Pyramix V12インストールガイド](#)を参照してください。
- カスタムインストールはお勧めできません。特定のシナリオでは、一部のコンポーネントが正しくインストールされません（登録DLLエラー）。
- Pyramix v12.0プロジェクトはPyramix v11.1と下位互換性がありません。そのようなプロジェクトをPyramix v11.1で開くには、「Save Special as v11.1」を実行する必要があります。
注意：Ambisonic v12プロジェクトはPyramix v11.1と完全な互換性はありません
- Ambisonicのサポート：Ambisonic Busのチャンネルタイプは変更できません。
- Ambisonicのサポート：Panner Divergenceコントロールは、Ambisonic Encoding / Panningには今のところ影響しません。
- Ambisonicのサポート：Pyramix Mixerは現在、リモートMicPre用のAmbisonic入カストリップ用のマルチチャンネル接続を許可していません。
HorusとHapiのWeb Access PreAmpsページを使用してください。
- プロジェクト作成時のデフォルトのレコード・フォーマットは、リカバリーおよびコンプライアンスのためにPMFからBWFに変更されました。PMFを使用したいユーザーは変更可能です。
- NVidiaグラフィックカードを使用しているWavesプラグインユーザーは、Threaded Optimizationがオフになっていることを確認する必要があります。オンに設定すると、Waves VSTプラグインで問題が発生する可能性があります。
こちらのリンクを参照してください。<https://confluence.merging.com/display/PUBLICDOC/Graphic+cards+recommended+settings>
- バックグラウンド録音を行うときにフォルダが選択されていない場合、バックグラウンドレコーダは最後にマウントされたフォルダに録音します。
- PMX111-19：99以上のインデックスを持つCDイメージ "デジタルリリース "アルバム出版 "の生成はサポートされていません（Redbook制限）
- PMX111-71：Mixer：Delay CompensationがOFFの場合、Mixerを再構築するとメータリングが失われます。
回避策：Delay CompensationをONにするか、2回目のMixer Rebuildを実行してください。
- PMX111-222：安定性の理由からMedia Managerの詳細ビューを使用することをお勧めします。
- PMX111-147：IzotopeのRX6 De-Clickのようなプラグインを使ってFXRenderingをすると、プレビューでPyramixがフリーズ/クラッシュすることがある（iZotopeに報告）
- PMX111-184：ミキサー：ミキサーでバスツールとストリップツールを追加または移動したときに整合性が取れない、ミキサーを再構築する、またはスクロールしてUIを更新する



- PMX111-22 : 2つの重なっているクリップが同じメディアをプロジェクトとは異なるサンプリングレートで参照していると、重なっている部分でノイズが発生します。
このようなワークフローを使用する前に、これらのメディアをプロジェクトのサンプリングレートに変換してください。
- GAIA-1020 : 44.1kHz以外のサンプリングレートでのプロジェクトでアクティブなメトロノームとのミックスダウンがクラッシュを引き起こす可能性がある
- ファイナルチェックメータリング : DXDではサポートされず、6チャンネルに制限されていません。
- 固定カーソルモードは、リアルタイム再生編集には推奨しません。
- Black magic Design ASIOドライバがASIO4ALLと競合し、VS3コントロールパネルがクラッシュする可能性があります。
- Windows 7 MassCoreユーザーは、システムを正しく構成しているにもかかわらず、構成に関する警告メッセージが表示されることがありました。
そのような場合は、[このページの最後にある手順に従ってください](#)。
- v12.xのライブラリ形式は、v7.1としての古いPyramixリリースと互換性がありません。
v7.1として保存はライブラリメニューで利用可能です。
- Pyramixには "Not Enough Streams available" という警告メッセージがあります。
これは、利用可能な最大レコード入力に達すると発生します。そのような場合は、入力数を減らすか、入力を消費しているバックグラウンドレコーダーを無効にすることをお勧めします。
その後、再生を開始するたびに「プロジェクトの再有効化」というメッセージボックスが表示される場合は、回避するためにプロジェクトを閉じてから再度開きます。
セカンダリデバイス/ASIOブリッジまたはRewireを有効にしている場合はVS3コントロールパネルの下でStreamsを消費します。使用していない場合はこのオプションを無効にします。
- PyramixマルチチャンネルMCSストリップはプリアンプをサポートしませんが、VCAストリップはサポートします。
正しく通信するために、必ず最新のHorus / Hapiファームウェアをインストールしてください。
- ミキサーオートメーションバスAUX SEND。
ユーザーがAux Sendバスのオン/オフを自動化するのではなく、単にAuxのゲインを自動化することをお勧めします。これが遅延補償問題を引き起こす可能性があるのです。
- 新しいバスレイアウト/構造を含むV12プロジェクトは、Save Special v9.0プロジェクト内に保存できません。
新しいBusesレイアウト/構造を含むPyramix v12プロジェクトは、Save Special v9.0プロジェクト内に保存することができません。警告メッセージが表示されてしまうためです。
- 特定のプラグインの [サードパーティソフトウェア](#) に問題がある場合は、VSTプラグインのサポートについてサードパーティソフトウェアのページを参照してください。
- Mono Legacy Bus conversion



レガシーバスの変換。新しいバスのアーキテクチャにより、ミックスバスにはゲイン制御がないため、モノミックスバスはモノAuxバスに変換され、モノミックスバスには変換されなくなりました。

- **Pyramix Video**

ビデオWrapダイアログが非表示になる場合があります。ユーザーはAltキーを使用して、一番上に表示する必要があります。

PyramixビデオのConsolidateはサポートされていません。

ナッジ (<=>) オプションを使用すると、Pyramixビデオが追従しない場合があります。

Blackmagic Designカードでは、逆方向の再生によりオフセットが発生する場合があります。

Blackmagic Designのカードでは、最初に停止せずにチェイスすると遅延が正しくない場合があります。

- **PMF in Mixdown**

PMFファイル形式は、コンプライアンスの問題によりPyramix v11.1のMixdown形式から削除されました。Pyramix v11.1での推奨事項は次のとおりです。

- 録音の場合：Pyramix v11.1では、コンプライアンス上の理由からデフォルトの記録形式はBWFです。
- Mixdownの場合：MTFFを推奨します。
- Album Publishingの場合：信号の流れを改善するためにDigital Release で選択した形式
- Renderの場合：元の形式またはPMFまたはMTFFでレンダリングすることをお勧めします。DSDIFFは推奨されません。